



スカイAカップ 第41回関西オープン (女子) ボウリングトーナメント

12月10~12日 牧野松園ボウル

女王・姫路が大会2連覇、今季公式戦3連勝を達成!



▲末席から見事な3タテVを決めた姫路は強さの秘訣を問われ、「自分はまだまだ成長途上。今回もTV決勝に残るのがやっとなので、心身ともに疲れを感じていたが、頭の中でプラス思考に言葉を書き換えて、優勝までのストーリーを思い描いて挑んだ」とコメント

毎春恒例のJPBA公認大会「関西オープン」(男女隔年開催)が、2020年はコロナ禍による2度の延期を経て年末12月10~12日の3日間、牧野松園ボウル(大阪府枚方市)にて開催された。参加ボウラーはプロ106名・アマ32名の計138名。その頂点に立ったのは、またしても姫路麗(33期・フタバボウル)。末席の4位でTV決勝に進出して上位陣を3タテし、18年に続く大会2連覇とともに、坂本かや(49期)、男子の永野すばる(40期)と並ぶ今季公式戦3連勝を達成し、通算勝利数を25とした。(主催: (公社)日本プロボウリング協会関西東・西・南地区/特別協賛: (株)松原興産、サンブリッジグループ)

競技は予選10G・準決勝5Gを経て上位8名を決勝ラウンドロビン(=以下RR。ポジションマッチを含む総当たり8G)に選出。その結果、1位・坂本、2位・霜出佳奈(50期)、3位・松永裕美(37期)、4位・姫路の4名がTV決勝ステップラダー進出を決め、アマチュアで唯一RRに進出して総合6位と健闘した石田万音選手(神戸六甲ボウル)がベストアマに輝いた。

TV決勝

4位決定戦は前大会「JPBA★SSSカップ」の優勝決定戦と同じ松永 vs 姫路のライバル対決。「前回は勝ったけれど、

通算では大きく負け越している相手なので集中していった」という姫路は、RRからリメンテナしで突入し、変化の早いコンディションにいち早く対応してノーミスでフィニッシュ。対する松永は「自信があった右レーンの2フレで⑧ピンが残ったとき(スペア)、すでに心が折れていた(苦笑)」といい、同じ右レーンの6フレで④⑦⑩スプリットオープン。結果225:182で姫路が前大会に続いて松永を下し、霜出の待つ3位決定戦に勝ち上がった。

霜出は、姫路が18年関西オープンで300点Vを達成したときの対戦相手。「ゲーム前の紹介でそのことに触れてもらったので、途中から当時を思い出しながら投げていた」という姫路



▲2年前と同様の展開で敗れた霜出だが「麗さんがどれだけ打とうと、自分もいいボウリングをしようと思って投げ切れたのがよかった」と自身の成長に手応え

は、ライバル松永を破った余勢を駆って今回も7連発スタートを決め、会場をザワつかせた。結果は準パーフェクトの279。霜出も6フレからの5連発で食らいついたが、序盤2フレで④⑥⑦スプリットオープンの1ミスが響いて231に終わり、再

び姫路の軍門に降った。

そして迎えた優勝決定戦は、今季3度目となる坂本との対戦。過去2回とも敗れている姫路は試合前、「(坂本は)今や私のほうが乗り越えなければいけない相手。純粋な挑戦者としてゲームに臨みたい」と話していたが、無意識に力みが出たか、5フレまでダッチマンが続く。

だが、ダブルスタートを決めた一方の坂本も、4フレからまさかの3連続スプリットオープン。早々に勝敗の行方が決した上、8フレでは姫路が④⑥⑦⑩、坂本は④⑥⑦のスプリットをと

もにオープンとし、頂上決戦は予想外のローゲーム決着になるかと思われた。

しかし、さすがは現在の女子プロ界をけん引するツートップ。9フレからは揃ってオール



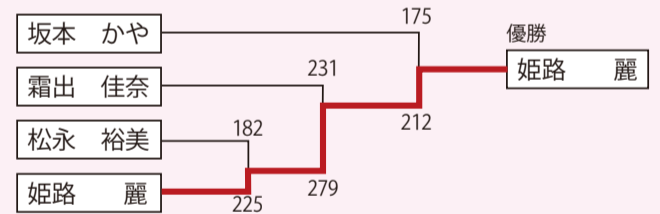
▲トップシードの坂本はよもやの4スプリットで自滅。レーンの変化の早さに戸惑ってしまった

ウェーで締めくり、最終スコアは212:175。坂本に一矢報い、末席からの3タテを決めた姫路が大会2連覇、今季公式戦3連勝を達成し、通算勝利数を25と伸ばした。

(写真提供: JPBA)

※優勝ボール: STORMフィジックス・パワーエリート

●決勝ステップラダー



●優勝決定戦

姫路 麗	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	9	20	40	60	80	100	126	144	152	182	212
坂本 かや	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	26	46	62	70	79	87	106	115	145	175	



▲ライバル対決に敗れた松永は「今回はすべてにおいて姫路さんが圧倒的に上回っていた」と脱帽



▲表彰式後の記念写真。右端はベストアマ(総合6位)の石田万音選手



文部科学大臣杯 第27回全国高等学校対抗選手権

12月18~20日/津グランドボウル

男子は兄弟ペアの桐生第一高校が初V 女子は福岡第一高校が2年ぶり3度目

第27回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会は、会場を前回までの神奈川・川崎グランドボウルから三重の津グランドボウルに移して行われた。

44校が参加した男子は、予選を千葉商科大学付属高校(内野稔・佐藤滉介)が1位で決勝に進んだが、その千葉商大付属高を準決勝で下した予選4位の

群馬・桐丘学園桐生第一高校(砂長陸・砂長空)と、6位通過の神奈川県立横須賀工高(中尾一貴・石川夕真・小瀬川淳矢)が優勝決定戦に勝ち進んだ。その対戦は、兄弟ペアの桐生第一高校が、弟の空選手の264を叩く活躍もあって452:415で快勝、初優勝を飾った。

14校によって争われた女子

は、8位通過の群馬県立安中総合学園高校(石田玲奈・石田夏菜)が、1回戦で予選1位の愛知県立木曾川高校(林育美・戸塚知菜)を下して勢いに乗り、そのまま優勝決定戦に進めば、予選2位通過の福岡第一高校(溝田月輝・幸木百合菜)は1回戦507、2回戦470を打って危なげなく勝ち上がった。その



▲女子優勝の福岡第一高校(左から幸木・溝田選手)と男子優勝の桐丘学園桐生第一高校(左から砂長陸・空選手)

両校の対戦は、最後の1投までもつれる大接戦となったが、福岡第一高校が420:417と3ピ

ン差で制して、2年ぶり3度目の優勝を飾った。

(写真提供: JBC)